



TITLE:

經濟漫録(二)

AUTHOR(S):

瀧本, 誠一

---

CITATION:

瀧本, 誠一. 經濟漫録(二). 經濟論叢 1916, 3(6): 908-912

ISSUE DATE:

1916-12-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127123>

RIGHT:

京都帝國大學法學大科大學

# 經濟論叢

第六號

第三卷

大正五年十二月一日發行

## 論說

戰時ノ我輸出品ノ粗製濫造(一)

戸田 海市

最小活資ノ免稅ヲ論ズ(三、完)

神戶 正雄

參觀交代制度ノ經濟觀(一)

本庄 榮治郎

『座』ノ研究(三)

三浦 周行

代表紙幣ト獨立紙幣(三、完)

作田 莊一

## 雜錄

公營造物ニ關スル美濃部(鐵田、松本ニ博士ノ)  
所論ヲ讀ミテ東京市電車舊乘車券問題ニ及ブ(三、完)

福田 德三

戰後ノ經濟戰ニ對スル準備

神戶 正雄

簡易保險更張ノ一方面

財部 靜治

歐洲ニ於ケル工場監督機關ニ就テ(一)

山本 美越乃

人口ト勞銀ノ趨勢

高田 保馬

經濟雜話(六)

田島 錦治

經濟漫錄(三)

瀧本 誠一

金井法學博士在職二十五年祝宴記事

田島 錦治

社會政策學會第十回大會記事

河上 正雄

京都法學會大會記事

## 經濟漫錄 (二)

瀧本 誠一

(十三) 鑑役ノ由來 鑑役<sup>カキヤク</sup>トハ人家ノ竈ニ課シタル  
 税ニテ、今ノ戸別割ノ如キモノナリ、徳川時代  
 ニ於テ何時ノ頃カ、百姓ノ戸別ニ課税セントノ  
 議起リ、ヤカテ棟役ト稱シ、家々ノ棟數ニ割當  
 テ課税シタルニ、百姓之ヲ脱カレンカ爲メ、數  
 軒持合ノ長屋ヲ造リ、一棟ノ内ヲ幾軒ニモ仕切  
 リ、一軒分ノ税ヲ出シテ一緒ニ住ヒタリ、依テ  
 棟役ヲ廢止シ、門役トテ、出入ノ門數ヘ課税シ  
 タルニ、百姓又之ヲ厭ヒ、門ヲ塞イデ合持ニ一  
 門ヲ明ケテ、其レヨリ數軒出入シテ、一軒分ノ

税ヲ拂ヒタリ、故ニ又門役ヲ廢止シテ、家々ノ  
 竈ノ數ニカケテ出役セシム、之ヲ鑑役ト稱シタ  
 ルハ、鍋釜ヲ掛ル自在鑑ヲ云フナルベシ云々ト  
 算法地方大成ニ見ユ

(十四) 税多税少 明人ノ著ハセル群碎錄ト云フ書  
 中ニ税多税少税少税多ノ語アリ、輕税却テ收入  
 多シト云フノ意、一言ニシテ盡セリ

(十五) 商人ノ狹量 正司考祺ノ經濟問答祕錄ニ或  
 ル邦ノ名產ヲ他邦ノ商人ドモ來テ買求メ、之ヲ  
 自國ノ產物ト稱シテ、遠國ニ往テ市ヲ立ツ、本  
 邦ノ工職ドモ、自邦ノ名產ヲ他邦ヨリ名ヲ取ラ  
 レテハ耻辱ナリトテ、外商ノ來ルニ賣ラザル者  
 アリト云ツテ、商人ノ度量ノ狹キヲ嘲ケルノ  
 一節アリ、亦一理アルノ言ト云フベシ

(十六) 放債 本錢ヲ出シテ利入ヲ規ルヲ、俗語ニ  
 放債ト云フコト、容齋五筆ニ記セリ、放資ノ放  
 ハ、此等ノ語ニ基キシモノナルカ

(十七) 地獄ノ沙汰 金次第 きけばただ地獄の沙  
 汰も錢なれやト云フハ、山崎宗鑑ノ犬筑波集(凡  
 四百年前ノ編著)ニアル句ナリ、地獄ノ沙汰モ

金次第ノ謬ハコレガ出所ナルベシ

(十八) Ready-money-voter. じよん、はつちんそん Hutchinson ハ愛爾蘭出身ノ有名ナル政治家ニシテ、財政及商業政策ニ關スル著作ニ富メル人ナリ、彼ハ平素金錢及地位ヲ貪求シタルカ爲メニ、現金ボーターノ綽名ヲ得タリ（はつちんそん傳）今ノ世此ノ綽名ヲ羈チ得ザルモノ、幾人カアル

(十九) 古書ヲ讀ム注意 太田南畝ノ一話一言、第二十卷ニ霖雨集抄ト題スル條、彷彿千聲一度飛ノ詩句ノ注ニ、後醍醐時西行法師歌アリ云々ノ事ヲ引キテ「單按後醍醐時西行と時代のちかひしも面白し古人胸臆のまゝ思ひ出て書し也、譬へは日蓮御書に昔の人丸か詠ける和歌の浦にもしはたれつゝ世を渡し海士もかくやと思ける云々、在原行平の歌を人丸と書しも同日の談也、後世區々たる考据の學のごとくやかましき事にはあらず、大意さへ通すれば皮毛の外の事には拘らざるべし」トアリ、余曩キニ日本經濟叢書ヲ編纂スルニ當リ、少シバカリ我國ノ古書寫本

類ヲ閱覽シ、其ノ書中ニ引用シタル記事ノ不明又ハ疑ハシキヲ、一々本書ニ就キテ對照シ見タルニ、大體ノ主意ハ違ハザルモ、文字全ク符合セザル所アリ、殊ニ經史ノ本文ヲ引用シタルモノナド、却テ文詞ノ舛誤頗フル多ク、中ニハ寫字ノ間違モ少ナカラザルベキモ、亦盡ク然リトノミ認ム可ラズ、往々記憶ノマ、筆ヲ下シタルカト思ハル、モノアリ、之ヲ要スルニ古人ハ南畝ノ云ヘル如ク、大體ノ主意サヘ通スレバ瑣末ノ事ハドウデモ善シト云フ考デアツタモノデア、經濟上ノ事ヲ記スルニ、數字ノ間違ナド夥シキハ、讀者ノ當惑此上ナカルベキモ實際此等ノ缺點ハ、常ニ免カレザル所デア、故ニ我國ノ古書ヲ閱讀スル者ガ、區々タル毛皮ノコトニ拘泥スルハ、概テ無用ノコトト知ラレタリ

(二十) 日本人日本ノ事ヲ知ラス 武學述ト云フ書ニ「安永天明ノ間、支那人孟貫（一ニ涵トモ書ス）九ト云ヘル者、長崎ニ來リ、和語ニ熟シ、應對ミナ和語ヲ用ヒシト云フ、一日諸役人大勢會合ノ時、貫九ノ末座ニアリシガ、高カラニ和語ニ

テ謂フハ、日本ノ古ヘ吉田兼好ガ徒然草ニ唐山の品は藥物の外、毛類の如きはななくもかなト相見ヘ候、夫レニ只今ハ殊ノ外毛類其外玩物ヲ御求メ候事、如何ト云ヒシカド、我國ノ役人、其ノ座ニ在合フ人、一人モ此ノ事ヲ知リタルモノナシ、貫九ガ何ヲイフニヤト、其ノ話ニ取合フモノナカリシト、或人ノ語リシ事アリシ也」ト記セリ、油斷ノナラヌ事共ナリ

(廿) 百姓ハ死ナヌ様、生キヌ様ニ 徳川ノ政策ハ百姓一年ノ入用ヲ積リテ其餘ヲ年貢ニ取リ上ケ、財ノ餘ラヌ様ニ不足ナキ様ニ治ムルト云フ、恐ロシキ主義デアアルコトハ、本多正信ノ本佐錄ヲ始メ本居宣長ノ玉くしげ、藤田一正ノ勸農或問其他諸書ニ散見スル所ナルガ、落穂集ヲ見レバ一奇談アリ、曰ク、土井大炊頭殿、三十日計リノ御暇ニテ、古河ヘ歸城ノ節、逗留見分アラレテ後、家老共ヲ呼ヒ出シ、被申聞候ハ、權現様御代毎年諸御代官衆、支配所ヘ御暇被下候節ハ、何レモ御前ヘ被爲召、御直ノ上意ヲ被成下候節兼々モ被仰聞候通リ、鄉村百姓共ヲバ死ナヌ様

生キヌ様ニト合點イタシ、收納申付候様ニト、有レ之上意ヲバ、毎歲被仰出タル事ニ候、先年我等當地ヲ拜領ノ節、其方タチモ、右ノ通領地ノ分ヲバ、残りナク巡見イタシタルニ、何レノ鄉村ニ於テモ、百姓共ノ住宅ニ、家ラシキ家トテハ一軒モナカリシニ、今度不慮ニ御暇被下候ニ付、此間領地ノ内、所々ヲ見巡リ候ニ、何レノ村々ニテモ、一トカドノ家作リノ百姓、相見ヘ候ハ、不審ニ思ハル儀ナリ、若シ生キ過ギタルニハ無之哉ト被申候」ト云ヘリトノコトデアアル、當時農民ノ狀態、思遣ラレテ憐ナリ

(廿二) 熟荒 豐年ニ米價賤クシテ、農民ノ窮スルコト甚タシケレバ、之ヲ稱シテ熟荒ト云フ、清人董含ノ尊鄉贅筆ニ秋大熟、斛米二錢、時湖廣江右、價尤賤、田之所出不足供稅、富人菽粟盈倉、委之而逃、有貨充斥、無過問者、百姓號爲熟荒云々ト見ユ

(廿三) 四民貸與殺 明治維新ノ前、長州藩ニ於テ補修金穀ナルモノヲ蓄積シ、低利ヲ以テ士民ニ貸與融通セリ、士民之ヲ便トシテ借受ケタルモ、

期ニ至リ返還ノ途ニ窮シ、却テ之カ爲メニ非常ノ困難ニ陥レリ、村田清風之ヲ名ケテ四民貸與殺ト云ヘリ(内務省編民政史稿民制篇)文字雅ナラズト雖モ、亦事實ヲ云ヘルナリ

(廿四)經濟ニ關スル著作ノ不遇　づやがるど、すてわあど Duguid Stewart　ガ其ノ經濟學說ニ關スル講義錄ヲ訂正出版セントシタルヲ、自分ノ子ノ爲メニ其ノ原稿ヲ喪失セラレ、くりつふ、れすりい Cliffe-Leslie　ガ多年ノ辛苦ニ成リタル英國法制經濟史ノ原稿ヲ、佛國漫遊中ニ紛失シタルガ如キハ、皆偶然ノ災厄デアツテ、學界ノ不幸トスル所ナレドモ、我國ニ於テハ經濟ニ關スル著作ハ、國政ヲ橫議スルノ嫌アリトテ、嚴ニ之ヲ祕密ニ付シテ多クハ他人ニ見セルコトヲ許サナカツタモノデアル、故ニ世上ニ現存スル少數ノ經濟書類(徂徠ノ政談竹山ノ草莽危言ノ類)ハ、著者ノ歿後、何クニカ漏傳ツテ居ツタモノガ、纔カニ好事家ノ手ニ依ツテ、公ニセラルルニ至ツタ位ノコトデアル、斯學ノ不幸是レヨリ大ナルハナシ

(廿五)學問ノ害　徳川時代ノ學者ガ經濟ニ關スル著作ヲ祕シテ公ニスルコトヲ憚カリタルバ、後世我々ノ一大不幸ナレドモ、現今ノ如ク、無暗ニ粗製濫造ノ著作ヲ公ニスルハ、餘リ感心シタコトデモナイ、石川安貞ノ代奕雜抄ニ學問ノ心得惡クシテ害ヲ招クコト多キヲ記シ「唐人ノ語ニ無<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>學術ニ殺<sub>中</sub>天下後世<sub>上</sub>ト云詞アリ、輕薄ノ學者分別モ無ク、政事經濟ノ書ヲ著シ、僥忽人ノ爲ニ取用ヒラレテ、大ニ世ノ難儀ヲ作シ、後代マデノ害ヲ貼スコトアリ」云々ト云ヘリ、我々ノ爲メ項門ノ一鍼トナスベシ

(廿六)ちゆるむろノ覺書　近年あだむ、すみすノぐらすむろニ於ケル「講義錄」ガ出版セララル迄ハ多クノ學者間ニ同人ノ富國論ノ種本ニアラズヤト疑ハレテ居ツタちゆるむろ Turgot ノ有名ナル著作 Réflexions ハ著者ガ *ぶいばん* Du pont ニ與ヘタル書面ニアル如ク、全ク二人ノ青年支那人ノ爲メニ作リタルモノデアル、此ノ支那人ハ其ノ頃(千七百六十六年)ちゆるむろいと宗ノ留學生トシテ、佛國ニ赴キ居タル者デ、ちゆる

じうニ深く親炙シタルモノナルヤ否分ラザレド  
 モ、彼等二人ハ佛國政府ヨリ俸給ヲ受ケ、支那  
 ノ文學上ニ關スル通信ヲ引受ケテ、廣東ヘ歸ラ  
 ントスル際ニ、ちゆるじうヨリ心得ノ爲メトシ  
 テ、此ノ貴重ナル覺書 *Réflexions* ヲ受取ツタ  
 モノデアル、此頃ハ宛モ支那ハ清朝トナツテ全  
 盛ヲ極メ、殊ニ文學上ノ事ニ最モ努力シタル乾  
 隆帝ノ時ナレバ、(千七百六十六年ハ乾隆二十一  
 年ニ當ル) 此ノ二人ノ青年支那人ガ、若シ有爲  
 ノ人物デアツテちゆるじうノ學說ヲ大ニ紹述ス  
 ルコトヲ勉メタランニハ、支那ノ經濟學ハ、今  
 日或ハ意外ニ進歩シ居タルヤモ知ル可ラズ、而  
 シテ爾後其ノ姓名サヘモ傳ハラス、杳トシテ煙  
 霧ノ中ニ葬リ去ラレタルハ、何等ノ遺憾ゾヤ  
 (廿七) 家康ノ豫言 徳川家康ハ其ノ府庫ノ財ヲ見  
 テ、此ノ金銀半ハニナレバ、天下亂ルベシト云  
 ハレシガ、(白石ノ讀史餘論) 徳川氏ハ遂ニ窮乏  
 ノ爲メニ亡ヒタルナリ  
 (廿八) 並木植付ノ目的 各藩ニ於テ其ノ城下ヘ通  
 スル街道ヘ、並木ヲ植付ケル慣習ハ、何時頃ヨ

リ始マリタルコトナルカ、又其ノ目的ハ何クニ  
 アリシヤ知ラザレドモ、紀州ノ祖先、南龍公ナ  
 ドノ目的ハ、戰時ノ際、防守ノ必要アリタルト  
 キ、之ヲ切り倒シテ、通路ヲ塞クノ用意ニナシ  
 タルモノナリト、或ル老人ハ云ヘリ、何所クモ  
 大抵コンナ目的ニ出テタルモノニテ、戰國時代  
 ノ遺風ナルベシ